

## 2025年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

### 1 活動概要

活動団体名	「特別テーマ実践科目 C/D（三浦市）」 & 「特別テーマ実践科目 C/D（南房総市）」 & 「地域活性化システム論」 & 「明治大学「道の駅」研究所」
活動テーマ	地域観光の振興と観光商品の提案
活動期間	2025年4月1日 ～2026年3月31日
主な活動場所	神奈川県三浦市、千葉県南房総市
連携地域	神奈川県三浦市、千葉県南房総市
連携団体等	三浦市役所経済部、明治大学「道の駅」研究所、くろぜむ農園、三浦洋菓子 HIBA、道の駅「とみうら枇杷倶楽部」、「三芳村鄙の里」
活動者数	75名（教員1名、学生74名） ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

## 2 活動内容 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

**スタート型**：新しい地域連携活動を着想した背景、また必要性について記載してください。

**ステップアップ型**：「過年度の活動内容」を記載の上、今回の申請の「発展性」あるいは「応用内容」などを記載してください。※過年度の活動が無ければ記入不要です。

各年度の主な活動内容は、次の通りである。

### 1. 過年度の活動内容：2023年度

まず、2023年度の活動計画の概要と達成状況について示す。神奈川県三浦市は、かつての基幹産業であった漁業の衰退等により

人口減少と高齢化が進み、2014年には「消滅可能性都市」であると指摘を受けた。このような三浦市の現状について、学生の目線から地域の課題を見つめ直し、有効な地域活性化策を提言することを目指し、計4回の現地調査を実施した。春学期は、市の代表的な観光イベント「道寸祭」に諸役として参加して、地元の方々とふれあい（第1回）、さらに三崎港商店街を訪れ、商店会と買い物客にインタビュー調査を実施した（第2回）。秋学期は、特産品開発として、地元で6次産業化に取り組んでいる「くろぜむ農園」（第3回）と、「三浦パン屋充麦」（第4回）を訪れ、地元産の農産物から特産品を製造し販売する取り組みとその効果・意義について、インタビュー調査をもとに検討した。そして本活動成果をディスカッションペーパー（日本NPO学会）2篇と報告書パンフレット1篇（「地域のチカラ」明治大学「道の駅」研究所、500部発行）に取りまとめた（参照：「2023年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書」、<https://www.meiji.ac.jp/social/japan/mkmht0000011fqtb-att/a1709185891312.pdf>）。

### 2. 過年度の活動内容：2024年度

2023年度の活動のうち未達成であった点は、地域活性化のための新規事業を提案するまでには至らなかったことである。現地での調査実習により、現地の方々との交流を図り、より実質的な地域課題の把握をすることができたが、その情報を実際の商品開発に活かすことができなかった。このことから、2024年度は、活動テーマを「地域観光の振興と観光商品の提案」として、地域活性化策を「観光」に絞り、観光客に魅力的な観光商品の開発を目標として、成功事例についての調査を実施した。活動主体については、本活動を主導する「特別テーマ実践科目C/D(三浦市)」(於：明治大学駿河台キャンパス、担当：松尾)に、「特別テーマ実践科目D(南房総市)」(於：同駿河台キャンパス、担当：松尾)と「特別テーマ研究科目A/B(社会調査法)」(於：同和泉キャンパス、担当：松尾)、「地域活性化システム論B」(於：同駿河台キャンパス、担当：松尾)を加え、4クラスの横断的な合同グループによる地域連携活動を実施した。さらに、明治大学「道の駅」研究所に所属する15名の研究員の先生方にご協力いただいて、学生による本活動をサポートした（参照：「2024年度地域連携活動助成金活動成果報告書」、<https://www.meiji.ac.jp/social/japan/mkmht0000011fqtb-att/a1741938217322.pdf>）。

具体的には「特別テーマ実践科目C/D(三浦市)」において、三浦市の地域課題の導出、課題解決のための新たな観光商品「三浦ハチミツクッキー」の開発を目的として、PBL (Project Based Learning) 形式によるアクティブラーニングを、地元で商品開発・流通・販売に携わっているゲストスピーカーによる講義(計4回)と計5回のフィールドワークにより実施した。さらに、連携する2つのクラス「特

別テーマ実践科目 D(南房総市)」、「特別テーマ研究科目 A/B(社会調査法)」における計 4 回の実習授業を実施して、人口減少と高齢化に直面する地域における観光振興の取り組みについて現地調査を実施した。なかでも、三浦市での新商品開発の参考とするために、南房総市での「房州びわ」を使った地域特産の観光商品の事例調査を通して、その成功要因を検討した。

各授業での実習授業の内容は以下の通りである。

1) 「特別テーマ実践科目 C/D(三浦市)」

第 1 回(5 月 19 日)・内容：三浦市の現状と地域課題の把握。三浦市に伝わる道寸祭に「諸役」として地元の祭事に参加する「参与観察」の実施。

第 2 回(6 月 9 日)・内容：三浦市三崎港周辺の商店街の街歩き。三浦ブルワリーにおける地産地消の商品生産に関する工場見学と聞き取り調査の実施。

第 3 回(10 月 12 日)・内容：神奈川県立三浦初声高校和田キャンパスでの「ニホンミツバチ」から採取するはちみつの収穫と地元の「養蜂クラブ」の皆様との交流と連携の構築。

第 4 回(11 月 9 日)・内容：神奈川県立三浦初声高等学校 入江キャンパス での「ニホンミツバチ」から採取したはちみつを使った地域特産品「三浦はちみつクッキー」の試作と、来年度に向けて新しい巣箱を三崎観光株式会社の所有する荒井浜海岸敷地に設置。

第 5 回(12 月 8 日)・内容：「三浦三崎ストア」(京急三崎口駅前の三崎観光株式会社のテナント)での「三浦はちみつクッキー」の PR と地域住民と観光客に対する反応調査の実施。

2) 「特別テーマ実践科目 D(南房総市)」

第 1 回(10 月 27 日)・内容：道の駅「とみうら枇杷倶楽部」、「三芳村 鄙の里」での「南房総市内道の駅ネットワーク」の取り組みに関するアンケート及びインタビュー調査の実施。

第 2 回(11 月 16 日)・内容：道の駅「ちくら潮風王国」での「南房総市内道の駅ネットワーク」の取り組みに関するアンケート及びインタビュー調査の実施。

3) 「特別テーマ研究科目 A/B(社会調査法)」

第 1 回(7 月 14 日)・内容：三浦市京急三崎口駅前及び三崎港商店街での、観光と人口に関するアンケート及びインタビュー調査の実施。

第 2 回(11 月 23 日)・内容：千葉県内の「道の駅」4 駅(「発酵の里こうざき」、「水の郷 さわら」、「季楽里あさひ」、「みのりの郷 東金」)に対する地域活性化の取り組みに関する調査実習のためのバスツアーの実施。現地での調査票によるアンケート及びインタビュー調査の実施。

そして、上記のような地域連携活動の内容を、明治大学商学部「商学部の現場」(計 10 項目)に掲載するとともに、活動報告書パンフレット「地域のチカラ 第 2 号」(明治大学「道の駅」研究所発行、1000 部)と、ディスカッションペーパー(日本 NPO 学会発行) 1 篇にとりまとめた。さらに、2025 年 3 月には、一連の地域連携活動うち、三浦市での「三浦はちみつクッキー」の制作プロジェクトが、プレスリリース(1 件)により広報された。各報告書の掲載内容は以下の通りである。

(a) 商学部の現場(10 項目)

① 特別テーマ実践科目 C 「地域振興と観光まちづくり・基礎編」および特別テーマ研究科目 A 「社会調査法」の合同成果報告会 <https://meiji-commerce.jp/lesson/post-337.html>(第 1 回：道寸祭、第 2 回：三浦ブルワリー)

② 「特別テーマ実践科目 D\_三浦市における地域振興と観光まちづくり・応用編」ハチミツプロジェクト(第 4 回：神奈川県立三浦初声高校和田キャンパス、第 5 回：神奈川県立三浦初声高等学校

入江キャンパス、第6回：三浦三崎ストア)

③ 「特別テーマ実践科目 D 南房総市」における千葉県南房総市「道の駅」での現地調査：  
<https://meiji-commerce.jp/2025/03/31/d-9.html> (第1回：道の駅「とみうら枇杷倶楽部」、「三芳村  
鄙の里」、第2回：道の駅「ちくら潮風王国」)

④ 特別テーマ研究科目 A/B\_社会調査法「千葉県房総半島道の駅バスツアー」成果報告：  
<https://meiji-commerce.jp/2025/01/21/ab-1.html>

⑤ 「特別テーマ実践科目D\_三浦市における地域振興と観光まちづくり・応用編」成果報告会：  
<https://meiji-commerce.jp/2025/03/07/d-5.html>

⑥ 「特別テーマ実践科目D 南房総市における地域活性化の取り組み」成果報告会  
<https://meiji-commerce.jp/2025/03/07/d-6.html>

⑦ 特別テーマ実践科目 D (南房総市) 特別講義「輪島の被災と輪島塗など産業再生～取材を通して  
見えたもの～」：<https://meiji-commerce.jp/2025/03/31/d-8.html>

⑧ 「地域活性化システム論 B」における地域での交流・活性化を促進する2つのNPO団体による  
特別講義：<https://meiji-commerce.jp/2025/03/17/b2npo.html>

⑨ 「地域活性化システム論 B」における「地方創生アイデアコンテスト」の開催：<https://meiji-commerce.jp/2025/03/13/b-21.html>

⑩ 「地域活性化システム論 B」における途上国での国際協力に関する特別講義：<https://meiji-commerce.jp/2025/03/31/b-23.html>

(b) 活動報告書パンフレット (1冊)

松尾隆策『地域のチカラ 2025年度活動報告書』第2号、明治大学「道の駅」研究所、2025年3月。

(c) ディスカッションペーパー (日本NPO学会) (1篇)

初瀬川岳史・林滯美・松尾隆策「神奈川県三浦市の地域振興と観光まちづくりに関する一考察—明治  
大学商学部「特別テーマ実践科目 C/D」実習報告書—」2025-002-J、日本NPO学会、2025年3月、  
<https://www.janpora.org/dparchive/pdf/20250318J.pdf>。

(d) プレスリリース (PRTIMES、明治大学広報部) (1件)

「明大生が三浦市の観光商品を提案！地域の高校生と共同で「三浦はちみつクッキー」を開発～明治  
大学地域連携活動助成金プロジェクトでの成果～」  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000199.000119558.html> (PRTIMES)、  
<https://www.meiji.ac.jp/koho/press/2024/qfki0t000001416t.html> (明治大学HP)。

上記の2024年度明治大学地域連携活動助成金による実習実践授業を通して、学生が、三浦市の地域課  
題に対する理解を深めると共に、新たな観光商品の開発に役立つアイデアを生み出すことにつながっ  
た。なかでも、連携する4つの講義の中で、中心的な役割を果たす「特別テーマ実践科目 C/D(三浦市)」  
における実習授業では、新たな三浦市の観光コンテンツとなる「みうらのはちみつクッキー」の商品  
開発に乗り出すことができたことは非常に大きな成果と言える (参照：「明治大学 X 神奈川県立三浦初  
声高等学校のコラボによる「みうらのはちみつクッキープロジェクト」に関するプレスリリース  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000199.000119558.html>)。

3. 今年度の「発展性」あるいは「応用内容」：

2023年度からの2年間にわたる本地域連携活動により、観光商品を用いた地域活性化策の提案、実

践に取り組んできた。そして、2024年度には、三浦市内で採れた原材料「ニホンミツバチのはちみつ」を用いて、地域内で生産された観光商品「みうらのはちみつクッキー」の開発・販売のための「みうらのはちみつクッキープロジェクト」を立ち上げ、神奈川県立三浦初声高等学校都市農業科（担当教員：古屋唯生教諭）と、三崎観光株式会社（担当：柴田和義常務取締役）との連携により商品開発に取り掛かった。昨2024年度は、三浦初声高校の農業実習に参加して、ニホンミツバチの巣箱からハチミツを採取するとともに、このハチミツを使ったクッキーの試作、さらに商品紹介のチラシの配布までを実施し、本格的な今年度の商品開発・販売の準備を行なった。

そして2025年度は、この「みうらのはちみつクッキー」の開発・生産・販売を目的とした一連の取り組みを継続し、2025年1月には、京急三崎口駅前の「三浦三崎ストア」と明治大学駿河台キャンパス内の「カフェパンセ」において、商品の陳列、販売を実施することを最終目標とする。

具体的には、本助成金により、2024年11月に三崎観光株式会社の荒井浜海岸にある所有地に設置した新たな巣箱3箱に、5月初旬から6月中旬にかけて、三浦初声高校の生徒と教員が、誘引剤を用いて希少なニホンミツバチの女王蜂を誘引し、蜂を巣箱に棲みつかせる試みを行なう。さらに、本年度の明治大学商学部「特別テーマ実践科目C/D（三浦市）」履修学生に、5月（道寸祭）と6月（三崎商店街街歩き）の2回の実習授業を通して、三浦市の現状とこれまでの観光商品による地域活性化の取り組みに対する理解を深めさせ、現地の方々との交流、連携強化を行なう。

10月には、「特別テーマ実践科目C/D（三浦市）」の第3回目の実習授業として履修学生が現地を訪れ、新たに設置した巣箱から希少なニホンミツバチのハチミツを収穫する。11月には、本商品の紹介ポスターを制作して、明大祭と三浦初声高校において、ポスター展示を行なう。そして11月中旬には、商品の製造販売に向けた準備と、さらに本商品の広報を通じた観光振興プロモーションの立案をすすめる。下旬には商品パッケージのデザインと販売会で着用するTシャツの製作等を行なう。そして12月には第4回目の実習授業として、「みうらのはちみつクッキー」の製造・梱包・商品発送までを行なう。まず、クッキーに使用する小麦粉は、2023年度に本活動でお世話になった「三浦パン屋充麦」（代表取締役：蔭山充洋氏）から、自家栽培の小麦から製粉した小麦を提供していただく。そして、三崎観光株式会社の協力のもとで紹介いただいた地元の菓子製造会社（未定）で、採取したハチミツを使った「みうらのはちみつクッキー」の製造に参加し、本学学生が制作した商品パッケージの新商品への貼り付け、箱詰め、出荷の作業を行なう。そして年度末1月には、第5回目の実習授業として現地を訪れ、「三浦三崎ストア」の店頭で、新商品「みうらのはちみつクッキー」の実演販売会を行なう。同時に三浦市において、提案発表会を実施し、次年度へ展開していく。

本活動で、学生のアイデアを具現化して、商品開発、製造、販売を体験することが、本学の学生のマーケティング、商品プロモーション、マネジメントの実践的教育につながる。さらに、若者が開発した新たな観光商品を、三浦市の特産品とすることで、地元住民の方々の郷土愛の情勢につながると思われ、WINWINの結果を産むものと期待される。本プロジェクトの実現に対する助成金の支給を、是非ともお認めいただきますと幸いです。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

### 【本助成金が給付された場合】

本地域連携活動で学生が考案し開発した「みうらのはちみつクッキー」の製造・販売、及び商品プロモーションを行なうことができる。実際に商品が生産され、消費者に販売されることで、地元企業に掛け合い、本活動後も地元で末長く愛される三浦市の新たな観光商品に繋げることができる。商品開発と販売プロモーション等を目的とした以下のような支出をすることができる。

### 活動スケジュール（実施した広報活動についてもご記入ください。）

今年度の地域連携活動は、「特別テーマ実践科目 C/D(三浦市)」で計 4 回のゲストスピーカーによる講義と履修学生による計 5 回の実習実践授業の実施で構成した。

4 月 25 日(金)：「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」ゲストスピーカーによる特別講義（第 1 回）

テーマ：「三浦市の現状と今後の観光振興について」

ゲストスピーカー：三浦市経済部観光プロモーション課担当課長 渡辺聡子氏

5 月初旬から 6 月中旬：2024 年 11 月に三崎観光株式会社の荒井浜海岸にある所有地に設置した新たな巣箱 3 箱に、三浦初声高校の生徒と教員が、誘引剤を用いて女王蜂を誘引し、ニホンミツバチを棲みつかせる試みを行う。

5 月 18 日(日)：「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」フィールドワーク（第 1 回）

三浦市の「道寸祭」に諸役として参加して「参与観察」の実施と、現地の方々に対するアンケート調査の実施。

6 月 1 日（日）：「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」フィールドワーク（第 2 回）

三浦市三崎港商店街での街歩きとインタビュー調査の実施。

6 月 20 日（金）：「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」ゲストスピーカーによる特別講義（第 2 回）

テーマ：「三浦市における観光まちづくり」

ゲストスピーカー：三崎観光株式会社常務取締役 柴田和義氏による講義

7 月 11 日（金）：「特別テーマ実践科目 C」成果報告会の開催

外部専門家委員：三崎観光（株）常務取締役 柴田和義氏

8 月 11 日（月）：「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」フィールドワーク（第 3 回）

三浦市で「くろぜむ農園」と「みうら洋菓子 HIBA」を訪問し、新商品の企画説明と今後の予定を相談。

8 月 28 日（木）：「特別テーマ実践科目 D (南房総市)」フィールドワーク（第 1 回）

南房総市において、地域活性化の拠点とされる道の駅「とみうら枇杷倶楽部」を訪れ、首都圏からの来訪者を増やすことで、町を活性化する取り組みについて、管理運営主体の「株式会社ちば南房総」相談役加藤 文男氏にインタビューした。そして、道の駅利用者に対するアンケートを実施して、活性化の方法について調査した。なお、本調査で得られた知見を「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」と共有した。

9 月 15 日（月）：「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」フィールドワーク（第 4 回）

三浦市で「くろぜむ農園」と「みうら洋菓子 HIBA」を再度訪問し、新商品を試食。

10 月 26 日（日）：ホームカミングデーでの新商品の試食と販売会「特別テーマ実践科目 D (三浦市)」

実証販売と検証。10 月 26 日に明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモン 2 階にて、「みうらのひだまりクッキー」（「くろぜむ農園」「HIBA」「明治大学」コラボ商品）の PR および試食会を開催した。

販売には、神奈川県三浦市役所長谷川課長、くろぜむ農園の山田靖子氏が同席した。イベント設営を行い、会場にてクッキーの味や価格等に関する購買者アンケート調査を実施した。



11月9日（日）：「特別テーマ実践科目D（南房総市）」フィールドワーク（第2回）

千葉県南房総市を再び訪れ、道の駅「とみうら枇杷倶楽部」と「三芳村鄙の里」において、利用者に対するインタビュー調査、アンケート調査を実施した。そして、観光客回遊型の振興についての効果を検証した。なお、本調査で得られた知見を「特別テーマ実践科目D（三浦市）」と共有した。

11月17日（月）：「地域活性化システム論」と「特別テーマ実践科目D（三浦市）」の合同授業。

ゲストスピーカー：太田芽衣氏（NPO SAT）に陸前高田での震災復興とその後の地域振興についてお話しいただいた。

1月9日（金）：「特別テーマ実践科目D（三浦市）」成果報告会の開催

外部専門家委員：三浦市経済部もてなし課課長 長谷川智行氏、  
三崎観光（株）常務取締役 柴田和義氏

1月10日（土）：「特別テーマ実践科目D（三浦市）」フィールドワーク（第5回）

三浦市で「くろぜむ農園」と「みうら洋菓子 HIBA」に新商品開発にお手伝いいただいたことへのお礼回を実施した。

1月19日（月）：地方創生アイデアコンテストの開催

「特別テーマ実践科目D（南房総市）（三浦市）」と「地域活性化システム論」の合同授業

地方における地域活性化のアイデアについて、グループに分かれて10分ごとのプレゼンテーション大会を開催した。外部専門家委員として、以下の3名の先生方を招聘した。

元国連人口基金事務所長・JICA 専門員 鹿野 和子氏

株式会社ちば南房総相談役 加藤 文男氏

帝京大学教授 麻生 憲一氏

1月中旬：「特別テーマ実践科目D（南房総市）」報告書作成と論文投稿

「特別テーマ実践科目D（南房総市）」における調査結果を日本NPO学会に投稿し、ディスカッションペー

パーとしてオンラインで出版した。

ホームページ URL : <https://www.janpora.org/dparchive/pdf/20260130J2.pdf>

2月中旬：「特別テーマ実践科目D（三浦市）」の報告書作成と論文投稿

「特別テーマ実践科目D」（秋学期）活動成果を報告書として取りまとめ、ディスカッションペーパーとして、日本NPO学会に投稿した。投稿中3月出版予定。

2月2日（月）：2025年度地域連携活動助成金成果報告会

（於）駿河台キャンパス アカデミーコモン11階 311C

連携先からの一言/参加学生からの一言/参加者からの一言（連携先又は参加学生からの一言の場合、所属と氏名をご記入ください。）

所属：三浦市経済部おもてなし課 課長 氏名：長谷川知行

今年度の「みうらのひだまり」プロジェクトを通じて、明治大学商学部と三浦市との連携が新たな段階に入ったことを嬉しく思っています。約20年にわたる協力関係を土台として、学生の皆さんが主体的に現地調査や協力事業者とのヒアリングに取り組み、三浦市の魅力を発信する商品を形にすることができました。

その熱意と笑顔が協力事業者の方々にも伝わり、結果として素晴らしい成果につながりました。本連携において初めての出展となったホームカミングデーでは、多くの方々に「みうらのひだまり」の試食を楽しんでいただき、応援メッセージも頂戴できたこと、さらには三浦市のプロモーションにも貢献いただいたことに心から感謝いたします。

令和8年度もこの連携を通じて、新たな価値を創造できるよう、私自身も精一杯取り組んでいきたいと思っております。